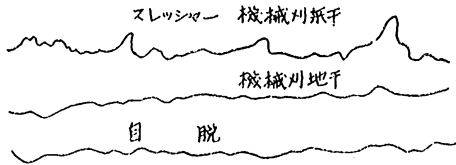


考 察

所要馬加：スレッシャーは自脱に比較して稍大であった。負荷変化の状態：自脱に比し変化が大、特に稲藪引込時に間けつ的に大きく現われる。毎時毎馬力効：自脱の仕上糶重平均423kgに対しスレッシャーは平均135kgで自脱に比べて少ない。選別性能：スレッシャーは1番口の糶歩合及びわら屑歩合が稍高く自脱に劣る。尚一番口の選別を良くするため風力を強くした



場合(3)2番口の精粒歩合が高くなる。これはスレッシャーの導風機構上に問題が残されている。

穂切れ歩合：スレッシャーは平均2.88%で自脱に比較すると稍多い。これは扱歯の形状受網の相互関係によるものと思われる。損傷粒重量歩合：スレッシャーが稍高い。これはスレッシング機構(ラスプバーの桁数或いはラスプバーの回転溝の深さ、形状等)に関係があるものと思われる。この点の改良と研究が必要である。調整性能：扱残り糶は極めて少ない。藪処理能率：能率を上げるため送り込量を多くするとストロラックに稍々滞溜する傾向があつた。能率と選別性能の点とスレッシャー容量の関係からストロラックの効率的な機構の研究が必要である。